

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Fermented foods and preterm birth risk from a prospective large cohort study; The Japan Environment and Children's study

和文タイトル: 本邦における発酵食品の摂食と早産リスクの関係

ユニットセンター(UC)等名: 富山UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Environmental Health and Preventive Medicine

年: 2019 月: 5 巻: 頁:

筆頭著者名: 伊藤実香

所属UC名: 富山UC

目的:

早産は子宮内感染や炎症が原因で起こると言われている。近年、発酵食品の摂取が種々の感染・炎症のリスクを減少させることが報告されているが、今回我々はエコチル調査で得られたデータの中から、味噌汁、ヨーグルト、チーズ、納豆の摂取頻度と早産の関連について解析した。

方法:

エコチル調査のMT1質問表で得られた味噌汁とヨーグルト、チーズ、納豆の妊娠前の摂取頻度と早産のオッズ比をみた。共変量として、出産時の年齢、妊娠初期のBMI、喫煙歴の有無、出産歴、教育歴、家族の収入、パートタイム勤務の有無、週42時間以上の長時間労働の有無を用いた。次に早産を、34週未満の早期早産と34週以降の後期早産に分け、それぞれで関係をみた。最後に早産歴のある女性に限定して解析した。

結果:

人工早産となりうる合併症と早産既往を除いた77,667名を対象とした。早期早産に限定すると妊娠前の味噌汁の摂取頻度が週1日未満の女性に対して、週1-2日、週3-4日、週5日以上との摂取では、早期早産オッズ比(OR)が、0.58、0.70、0.62(95%信頼区間; 0.40-0.85、0.49-0.99、0.44-0.88)であった。ヨーグルト週5回以上、納豆週3回以上食べると答えた人が、それぞれ週1回以下と答えた人に対して0.62(0.44-0.88)、0.60(0.43-0.85)であった。

考察:(研究の限界を含める)

今回の解析対象は、早産率3.1%の早産ローリスク群である。前回早産既往妊婦や後期早産ではこの傾向は認めなかった。味噌汁は、週1-2日、週3-4日、週5日以上と分けて解析してみたが、摂取量との相関はみられなかった。ヨーグルトや納豆のカップの大きさ、味噌汁のボールの大きさは指定されていないため、摂取頻度が摂取量と比例するかは不明である。これまでプロバイオティクスとして発酵乳製品の摂食と早産の関係を報告したものはあったが、味噌汁や納豆など日本の発酵食品と早産の関係を見たの今回が初めてである。

結論:

早産のリスクが低いと考えられる女性で、妊娠前に味噌汁、ヨーグルト、納豆を頻回に摂取していることは、早期早産のリスク低減と関連する。早産全体や後期早産ではこの傾向はみられない。